評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等
(1)教務	①生徒が主体的に学び考える力をのばす	学習評価の観点を示し、目標を明確にした学習環境を構築する。	B	B	B	観点別評価についての調査は行っているが、まだ運用には至っていない。	学習の目的が生徒と教師の双方に共有できるような評価の観点を構築できるよう務める。
		生徒の志望実現のために進路指導部と連携し学力向上のための方策を立案し実施していく。	A			進路を意識したカリキュラムづくりを行なった。	
	②生徒の学力補充に加えて高次思考力を高める	落ち着いた授業の実施を心がけ、授業内容の充実と十分な授業理解を目指す。	B	B		学習態度に落ち着きは認められるが、授業理解については十分できているところまでは至っていない。	アクティブラーニングの授業デザインが全教科に渡って行われるようにすすめる。
		「朝学」の時間を活用し、小テストや個別指導など、学力定着のための徹底指導を行う。	A			「朝学」を導入したが、特に混乱なく朝の学習時間を有効に使うことができた。	
		知識習得のための方策が整えば思考力育成のアクティブな学習デザインを積極的に取り入れる。	B			アクティブラーニングを開始している科目もあるが、未だに知識伝達型から抜け出せない科目も多い。	
	③成績不振者補習の充実に努める	定期考査前後における学習指導時間の確保と理解を促す指導内容の充実を図る。	A	A		成績不振者への学力向上の為に補習期間を設けた。科目によっては期間にかかわらず随時指導をした。	いつでも質問ができる環境を維持する。
	④教師の指導力の向上のための研究に努める	年間指導計画に基づく授業の実施と振り返りをしっかりと行う。	B	A		シラバスに基づき授業を実施した。しかし、年度末の振り返りが不十分であった。	研究授業を継続し、年度末には年間指導計画の振り返りを行う。
研究授業を実施する。		A	国語、数学、英語で研究授業を実施した。				
(2)生徒指導	①「創設のこころ」を礎として、豊かな人間性を養い、本校生としての自覚と誇りを持たせる	全校朝礼及び週初めのSHRで「創設のこころ」を唱和し、日常生活の中での実践を目指す。「思いやり・マナーアップ運動」を通して、マナーの向上と他を思いやる心を養う。	B	B	B	建学の精神である「徳・知・美」の理念を体得し、実践を目指して行っており、全校生徒が声をそろえて唱和できるようになった。実践についても各行事や校外の取り組みで実践している姿が見られた。	継続して実施する中、日常生活で実践できるようさまざまな施策を講じる。
	②礼儀を正す	「校門一礼」の看板を掲げ、職員が校門に立ち、校門での一礼を励行することにより、「感謝の心」「畏敬の念」を育む。	B	B		実施し始めて5年目になるが、生徒には概ね定着していると思われる。ただ、あいさつの仕方について、立ち止まらずに会釈したりする生徒がちらほら見受けられた。	継続して実施する。有志参加を募るなどして、活発化する。
		「元気なあいさつ日本一」の垂れ幕を掲げ、明るく元気な挨拶を習慣づける。	B			近隣住民の方や来校された方に、挨拶についてほめていただくことが多くなった。	
		生徒会・生活委員が中心となり、毎月校門での「挨拶運動」を実施する。	B			計画的に実施できた。	
	③身だしなみを正す	全校朝礼時の「頭髪指導の実施。	B	B		ここ数年で違反者が非常に少なくなった。頭髪指導前になると、自主的に散髪をするものが増えた。	基準を少し緩めて、生徒の自主性を尊重する実施の仕方を検討する。
		全職員が一致団結し、一人ひとりの生徒に関わりながら服装・頭髪・生活全般における指導を徹底する。また、「指導票」により担任・学年・生徒指導部が指導状況を把握し、家庭との連絡を密にしながらかみ細かい指導を行う。	B			組織的に指導体制を築き、的確に対応できるようになった。身だしなみはもとより、校則やマナー面など、学校生活全般にしっかりと指導体制を築けた。ただ、職員間に微妙な温度差があるのは否めない。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	
(2)生徒指導	④第1学年重点目標	期待と不安で迎える高校生活を正しく認識させ、本校の規則を守りながら早く落ち着いた学校生活を身につけさせ、何でも話し合い、支え合う心の通った人間関係とHRを作らせる。	B	B	学年団で計画的に計画・実施することができた。特に若い担任教員が多い中で、ベテラン・中堅教員ともよく連携できた。	学年単位で活動できる機会を増やし、学年への帰属意識を高める。	
	⑤第2学年重点目標	中堅学年としての自覚を高め、本校生の中核であることを認識させる中で、自発的な態度と連帯感を養う。また、校則の再認識をする中で上級生としての責任と心優しい節度ある行動を培い、進路決定に備えさせる。	B	B	リーダー研修会などを通して、委員会や部活動において、新しくリーダーとなり、団体の中心となる生徒への意識付け(自覚)をしっかりとできる取り組みを考えたい。	リーダー研修会の他にも新しいリーダーたちが集い、自分たちでよりよい学校づくりを考える場をもっと増やす。	
	⑥第3学年重点目標	最高学年としての自覚を高め、常にリーダーシップをとる中で自己を厳しく鍛え、集団の中での指導性を発揮し、取り巻く社会のつながりについて理解を深め、自己の進路の明確化を図る。	B	B	さまざまな場面で最高学年としての自覚を確認する機会を持てた。いざ進路が決まってしまうと、目標がなくなり無気力になる生徒がいた。	モチベーションを維持できるような対策を講じる。また、卒業後の自分のためになるようなガイダンスの実施など検討する。	
	⑦校外指導の充実	県下一斉乗車マナー向上運動、VPA活動等を通して学期に1～2回程度の乗車マナー指導。	B	A	他校の教員、警察、補導員などと協力して実施した。本校生徒の乗車マナーについては、特に問題ない。	継続して実施する。	
		校門、駅前、通学路を中心とした登下校指導。	A		生徒の安全管理面については大きな成果を挙げている。ただ、駅・交差点・校門の3ヶ所を輪番で行うため、教員への負担が課題である。		
		夏季休暇中、考査終了日の地域別校外指導。	B		学校周辺の人が集まる所を巡視し、問題行動の抑止になっている。		
	⑧校内指導の充実	無断遅刻欠席の防止対策を強化し、保護者との連絡を密にしながら生徒一人ひとりの行動を担当がしっかりと把握することで怠学防止に努める。	B	B	B	各クラス担当が、家庭と綿密な連絡体制を築き、欠席数は減少している。不登校傾向にある生徒についても、家庭と連携して対策を講じている。	継続して実施する。
		「入室許可カード」により、生徒の遅刻状況を把握し、段階的な指導を行い、生活面の改善を促す。	B		遅刻5回で学年主任指導、10回で生徒指導部長指導、15回で保護者と共に校長面談となっている。概ね遅刻数は減少しており、15回以上になるものはなくなった。		
		終礼を活用し、自己の一日を反省する機会を与えると共に、下校時の服装を自己点検させる。	B		各クラスの担任任せになっているが、概ねできている。		
	⑨安全管理の徹底	各施設・教室に「非常災害時避難経路図」を提示し、HR等で非常災害時の対応方法を確認する。	B	B	B	折に触れて災害時の対応については意識させているものの、実際に災害に遭遇したときに冷静に行動できるかが不安である。	この取り組みを継続しながら、さらに意識付けを効果的に行うものを検討する。パターン化させずに、さまざまな角度で新しい思索を練る。
「震災放送」「講演」「防災訓練」等を通して、危機管理意識の高揚を図る。		B	形式的な行事になっている。				
⑩生徒会活動活発化	生徒会は、生徒により構成され、その代表者が活動の核となり、全校生徒の望む明るく楽しい学校生活を目指している。また、生徒個人が各々の能力を自主的かつ躍動的に発揮できるように、あらゆる行事を企画立案し、実施することにより将来への希望と自信を培うことを目的とする。	B	B	B	昨年度後期から今年度前期にかけて、生徒自ら中庭の清掃に取り組んだ。	生徒会中央役員・各委員長・各部活動部長が集まり、リーダー研修会のように学校の為に話し合う場を設ける。	
					入試対策説明会での生徒会中央役員による学校紹介などにも挑戦し、自分たちから主体的・積極的に行動する活動を行っている。委員会どうしが連携した、更なる活発な活動が必要である。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等
(3)進路指導	①生徒一人ひとりの希望進路を保証するためのサポートを行う。進路ガイダンスや進路行事を通じて生徒の進路選択を促すとともに、生徒の到達学力および進路希望を把握し、その実現へ向けて適切なアドバイスを行う。	1年次から3年次までをトータルに捉え、それぞれの学年の適切な時期にキャリアガイダンス、進路ガイダンスを行う。また、個別の学校説明会や大学・専門学校見学ツアーを実施する中で、一人ひとりにあった学校説明を行い進路選択の指針を与える。	B	A		3年生全員と進路面談を実施し、生徒の希望を把握しながら進路指導ができたが、途中で進路変更をした生徒は後手に回ることもあった。計画的にガイダンスや大学見学ツアーを実施することができ、生徒の進学意識が高まった。	進路面談を継続し、学年や担任と連携して進路指導を進める。また、各学年でのガイダンス等も計画的に実施する。
	②生徒自らが進路選択できるよう指導するとともに、自己実現を図る上で必要な諸能力(基礎学力・計画性・判断力・情報収集力など)を養成し、生きる力へ結びつける。	生徒がほしいときに見ることができる資料を進路資料室に設置する。自ら考え、探し、入手できる情報を提供する。また、学外で実施される大学オープンキャンパスや進路相談会にも積極的に参加させ、進路に対する意識付けを行う。	B	B	B	資料閲覧ができるような進路指導室の整理が完全に整わなかった。しかし、オープンキャンパスや進路相談会の案内を適宜、各クラスに行ったところ、積極的に参加する生徒もおり、各自で情報収集を行っていた。	本棚等の設置を行い、資料閲覧しやすいようにする。説明会等の案内も適宜行う。
	③客観的な情報を提供するとともに、目標に向かって努力する習慣をつけ、自立的な進路決定を行わせる。	適切な時期に模擬試験を実施し、客観的な個人情報と全国規模の概況を示し、各自の目標に向かう学習を行わせる。	B	B		全校生徒に外部模試の案内を行ったところ、特進コース以外でも数は少ないが積極的に受験するようになり、その結果を進路指導に活用できるようになった。	外部模試等を受験させる指導を行い、進路指導に活用する。
(4)人権教育	①人間の尊厳を基本として、社会に存在する様々な人権問題の解決を目指し、個別の人権問題についての正しい理解と認識を培うとともに、人権尊重の実践的態度を育成する。	すべての教科・領域に人権教育を位置づけ教育活動全体を通じて人権教育を推進するとともに、人権教育講演会や人権教育ホームルームの充実を図り、積極的に参加し、実践できる内容を構築し展開する。	B	B		人権教育講演会・ホームルームを通じて、一人ひとりが人権に対する正しい理解を認識することができるようになり、他者を思いやる心を持てるように少しずつであるができてきている。	より充実したものにしていく。
	②自分らしさを発揮し、自尊感情を高め、自分も他人も大切だと考え、互いに認め合い支えあいながら共に生きていく社会を実現させる力を培う。	ほめる指導と共に積極的に参加することにより達成感を感じるような人権教育ホームルームの充実を図り、積極的に参加し、実践できる内容を構築し展開する。	B	B		職員研修を行い、ホームルームでは、グループ学習を通じて自分の意見を述べ、他人の意見を聞き積極的に取り組めるようになってきた。	職員の研修会を実施し、人権教育ホームルームの実践につなげていく。
	③他者との出会いを肯定的にとらえ、多様な価値観や生き方にふれながら、他者と共に生きることの意味を実践する。	すべての教科・領域に人権教育を位置づけ教育活動全体を通じて人権教育を推進するとともに、人権教育講演会や人権教育ホームルームの充実を図り、積極的に参加し、実践できる内容を構築し展開する。	B	B	B	学年ごとに計画的にホームルームを実施し、理解することにより、他を思いやる気持ち、感謝する気持ちを持ち、多様な価値観や生き方を認め合うことができるようになった。	校外の人権研修会等に積極的に参加し、人権意識を高め、生徒に伝えていく。
	④「命の尊さ」を認識させる。	人権教育講演会や人権教育ホームルームの充実を図り、積極的に参加し、実践できる内容を構築し展開する。	B	B		人権講演会「いのちの授業・東日本震災復興支援活動から学ぶ」を通じて、「命の尊さ」をあらためて認識することができた。	講演会を実施し、意義あるものにしていく。
	⑤生徒たちの悩みを受け入れ、有意義な学校生活を過ごせる手助けをする。	「悩みのアンケート」の実施や教育相談を充実させ、悩みを抱える生徒たちへの対応の迅速化とケア体制の充実化を図る。	B	B		早期対応のため有効なアンケートであり大きな問題に繋がらなかった。教育相談件数が少なかった。	アンケートは継続していく。女性のカウンセラーの採用を検討する。
(5)広報	特進コース30名以上、表現・情報コース25名以上、スタンダードコース70名以上の入学者確保。	特進コースは推薦・専願の特別奨学金制度の基準を緩和し、公立高校よりきめ細かい指導をしている本校へ誘導する。	B			緩和したことで、増えたが、目標数字には届かなかった。緩和内容を広く伝えることが課題である。	広く配布されるチラシ等で強く広報する。
		学校案内を大きく変えることで、本校の教育内容や様々な取組みをアピールし、イメージを上げる。	B			学校案内を変えてイメージアップできる内容になった。学校に興味を持たせることが課題である。	学校に興味を持たせるようにする。
		表現・情報コースはこのコースで大きく成長した生徒を具体的に取り上げることで、コースの取組みが生徒を大きく成長させていることを伝える。	C	B	B	説明会等で大きく成長した生徒について説明をしたが、表現・情報コースへの動員にはつながらなかった。	学校案内や外部での説明会等で頻度を多くして、具体的説明をする。
		奈良市内で入試説明会を開催することで、本校の認知度を上げて、新たな市場開拓を進める。	B			14組の参加があり、その後本校での説明会参加につながったケースもあり、今後も継続が必要である。	継続していくための日程および内容を検討する。
		保護者の意識を変えるために、本校の保護者がオープンスクールや入試説明会などで保護者目線での説明をしていただく。	A			本校の保護者による講演は参加保護者の現実とマッチして、好評であった。学校の取組みの保護者目線での説明も分かりやすかった。	保護者への講演依頼を充実する。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等
(6)文化活動	①文化活動の活性化を図る。	活発な文化活動のための学校の支援を求める。	B	B	十分に求めることができなかった。 一部の授業と図書館のタイアップがあり、授業進度に合った図書を見やすい書棚に配置するなど工夫した。 文化部による活動が増えた。校内行事は行われているが、質の面では改善すべき点がある。 「きずな」編集に際して、建学の精神を反映した内容にすることができた。	年間行事などを検討する。 図書館の保有する図書を増やす。 校内行事を検討する。教員の意識改革を図り、入念な事前準備を行う。 継続して実施する。
	②図書館の整備と充実を目指す。	図書の選定に力をいれ、生徒のニーズに応じた図書館を目指し、生徒の積極的な図書館利用を促す。	A	B		
	③学校文化行事の活性化を図る。	外部の文化活動への積極的な参加と校内での文化行事の質の向上と学校全体としての盛り上がりにも寄与するよう努める。	B	B		
	④学校刊行物の編集を充実させる。	「きずな」の内容の充実を図る。	A	A		
(7)図書館教育	①一般的な教養と広汎な知識を身につけさせる。	定期的に新しい資料を収集し、生徒が活用しやすいようにディスプレイする。	B	B	A 普段、生徒が読書をする機会が多くないので、需要が掴みづらいところがある。 修学旅行などの行事の前にはその土地や行事に関する資料を特集した。 図書館の利用方法はポスターで掲示し、生徒も施設の活用方法を理解した。	朝の読書の時間のため、クラスごとに積極的な活用を呼びかける。 継続して実施する。 継続して実施する。
	②授業に対する自主的・自発的態度を育成する。	学習指導・学校行事に関する資料、情報の収集に努める。	A	A		
	③社会性・道徳性を育成する。	文化的施設の活用を促し公共施設における態度を育成する。	A	A		
(8)健康教育	①生徒の健康の保持増進を図り、心身共に健康で、安全な生活を送ろうとする態度を養成する。	保健室を訪れる生徒の身体的な不調の背景に目を向けることを通して、生徒の発する様々なサインに気づき、他の教員と連携を図り適切に対処していく。	B	B	B 色々な問題を抱える生徒一人ひとりに対し受容的態度で接し自立への援助に努めることができた。学校生活への不適応や対人関係のトラブルなど生徒自ら解決できるよう助言した。 昼夜逆転による、体調不良の訴えが多いが、家庭との連絡をとりながら、基本的な生活習慣を改善することが、できつつある。不登校の生徒に対して、保護者ととも学校カウンセラーにつなげることができた。 各種のルールを理解しようとする姿勢や意欲が感じ取られた。しかし、運動能力に差があり、楽しめるところまではいけていない。	健康に必要な知識や考え方を学び健康な体を作る意欲を育てる。 さらに、生徒の自己管理能力を高めていく。健康相談を進めていく上で教員、カウンセラーとの結びつきを進める。 年次にわたり、時間をかけて取り組む。互いに教え合い、協力し合う中で理解を深める。
	②規則正しい生活習慣を送ることにより高校生としての基本的な生活リズムを営もうとする目的意識と実践力を身につけさせる。	健康と安全を図ための予防指導や傷病者の応急処置、健康診断、健康観察及び不登校生徒の対応に活用する。	B	B		
	③体育の授業を通してスポーツマンシップ、各種競技のルールを十分把握させ生活を楽しむ心情を培う。	各種競技を取り入れ、積極的な態度を育成する。	B	C		
(9)情報推進	①学校情報デジタル管理の徹底。	校務の情報化を進め、作業効率を高める。	B	B	C 校内電子掲示板システムの「Infoboard」による情報伝達の維持管理を行なった。 生徒個人情報のデータベース化、セキュリティポリシーの維持管理を行なった。	日々の出欠管理などのデジタル化を検討する。
		生徒情報を共有し、生徒の状況把握を周知徹底する。また、個人情報の管理を徹底する。	B			
	②ネットワーク環境における教員間の情報共有の徹底と、有効利用を目指す。	教務情報や教育コンテンツ、会議資料データの共有を促し、会議資料の紙印刷を減らす努力をする。	C	C	会議資料は従来からの紙媒体のままであった。	職員会議の資料のデジタル化と生徒指導要録のデジタル化を検討する。
		生徒指導上必要な個人情報のデータベース化を目指す。また、個人情報の管理を徹底する。	C		生徒指導状の個人情報のデータベース化のシステム構築のための情報が収集できなかった。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等
1年	基本的生活習慣の確立	時間を守る、挨拶の励行、清掃美化の徹底を目標とし、社会や学校の規則を遵守させる指導に努める。	B	B	B	校門での挨拶の励行や掃除・服装面ではほとんど習慣づいてきたが、授業の挨拶が後半になり少し崩れた。	教科担当者が意識を高く持ち、継続して実施する。
	基礎学力の充実	リメディアル教育で基礎学力を身につける。	B	B		漢字・英単語・各教科における振り返り学習は定着した。	継続して実施する。
	積極的・自主的な活動	進路実現のためには十分な準備が必要であることを自覚し、長期的な視野のもとで、進路目標を具体的に設定し、その実現に向け自ら積極的に努力する。また、日常の学習を通じて学習方法や学習習慣を身につける。	C	C		進路行事やHRを通じて次の進路目標や自己実現に向けて取り組んだが、あまり浸透しなかった。	日々の学習習慣や目標設定を明確にする。個人面談の数を増やし、意識付けをする。
2年	基本的生活習慣の確立	時間を守る、挨拶の励行、清掃美化の徹底を目標とし、社会や学校の規則を遵守させる指導に努める。	B	B	A	各担任・学年主任・生徒指導部長等が連携し取り組むことができた。ただし挨拶については不十分なところも見られた。	挨拶をしようという指導だけでなく、挨拶方法を掲示するなど、よりわかりやすくする。
	規律ある生活態度の習得	社会や学校のルールを守り、規範意識を高める。	B	B		教員同士で連携をとり、厳しい姿勢で対応した。	口頭で伝えるだけでなく、さまざまな手法で啓発する環境を整える。
	積極的・自主的な活動	長期的な視野のもとで、進路目標を具体的に設定し、その実現に向け自ら積極的に努力する。日常の学習を通じて、進路目標や段階に応じた学習方法や学習習慣を身につける。	A	A		各コースごとに進路の目標設定が変わるので、各担任を中心に学年会議などで情報共有に努めた。生徒については進路ガイダンスや保護者対象説明会を実施するなかで、進路に対する意識付けをすると同時に、学習への意識付けへと転換していくことができた。	継続して実施する。
	人間性の拡張	国際交流を通して異文化に触れることにより、日本文化の良さを知るとともに、国際視野を養い、自己の向上に努める。	A	A		台湾修学旅行を通じて異文化交流を深めた。修学旅行自体はもちろんのこと、そこにいたるまでの事前学習(留学生との交流)や事後学習(テレビ会議システムでの交流)などを通して十分に異文化を理解し、国際的な視野を身につけることができた。	台湾の交流校が来校することで現在進めている国際理解の学習をさらに発展させて進めていく。
3年	基本的生活習慣の確立	時間を守る・挨拶の励行・清掃美化の徹底を重点目標とし、社会や学校の規則を遵守させる指導を行う。	A	A	A	担任同士の共通意識と、生徒指導部の協力により、生徒への習慣性が定着できた。	学年団の共通理解を図り、生徒指導部等の協力を得て実施する。
	規律ある生活態度の習得	社会や学校のルールを守り、規範意識を高める。マナーやエチケットを身につけることでの品格の向上に努力するよう指導する。	A	A		生活習慣の定着から、自発的に行動を起こし、最高学年としての自覚を認識させることで、規範意識の向上につながった。	基本的生活習慣を基礎に、定期的にマナーやエチケットなどを指導する。
	積極的・自主的な活動	進路実現のためには十分な準備が不可欠であることを自覚し、進路目標を具体的に決定し、その実現に向け自ら積極的に努力し、実現力を養う指導を行う。	A	A		オープンキャンパスの案内等の紹介・掲示することで、早期からの意識を高めることにより、積極的に取り組めた。	できるだけ早い時期に意識付けをするため、HR等を実施する。
	人間性の拡張	国際交流を通して得た世界観を活かし、社会貢献の素養を高める指導を行う。	B	B		社会人としての、心がけを身につける講習会をとおして意識を高められた。	外部団体等による講演を実施する。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等
特別進学	国公立・難関私立大学合格を目指した十分な学力をつける。	日々の授業及び関中塾での徹底した進路指導を通して、学力向上を目的とした教科指導を行う。徹底した個別指導を行う。水曜日7・8限は「ネット配信活用授業」による学習を2・3年生に実施する。	A	A	A	個々の生徒の実態に応じた個別指導はできた。ネット配信活用授業は、生徒にとっては向き不向きがあり効果は様々であった。	教員間の連携を図り、徹底した個別指導を継続していく。ネット配信事業を継続して実施する。
	進学目標大学早期設定のための進路指導の充実。	特任教員、進路指導部の教員を中心に各担任の徹底した学力指導及び進路指導のもと、第一志望の実現を目指す。	A	A		担任が個別面談を日々行い、個々の生徒の状況を把握し、的確な指導ができた。	特任教員等と連携をとり、より密な指導を継続する。
表現・情報	伸びる学力、伸ばせる指導に向けて独自の学習編成を図る。	表現力の基盤となる確かな学力を身につける。徹底した基礎学力の定着と能力の伸長を目指す。	B	B	B	朝学による学習、リメディアル教育を実施し、またクラスの人数が少人数なので、目をいき届かせることができた。基礎学力の定着と能力の伸長には、効果はあった。	継続して実施する。
	徹底した表現能力の充実を図る。	「表現ⅠⅡⅢ」では、プロの演劇家による指導のもとに「演劇」を通して、社会で必要とされている表現力を養う。	B	B		表現では身体の使い方や、舞台上での見せ方などを身につけ、演劇の作品をつくるときに自分の意見を発言するような意識が高まった。	継続して実施する。
	情報処理能力と個性を伸長させる。	コンピュータを使つてのグラフィックスなど情報機器による様々な表現技術を学ぶ。動画のCMを企画、実際の製作を通じ動画の製作手順(企画・撮影・編集等)を習得すると同時に自己表現力豊かな「人間」を育てる。また、タブレットを活用した新しいスタイルの学習も取り入れる。	B	B		パソコンやiPad mini を用いて、Word , Excel , Power Point 等を活用し、画像の加工技術や動画製作、編集、CM製作などを習得すると同時にプレゼンテーション能力の向上させることができた。	タブレットを活用した新しいスタイルの学習方法を検討し、工夫をする。
	希望進路に向けた学力の伸長と社会貢献を図る。	大学進学に十分対応できる授業を展開しながら、一人ひとりの個性を大事にし、現代社会において必要な「表現力」を武器にたくましく生きていく力を養う。	B	B		大学進学に対応できるような授業を展開した。日常生活で、個々の個性・特性を活かし、情報特演等で身に付けた表現力を活かした受験ができた。	継続して実施する。
スタンダード	確かな基礎学力を身につける。	個々の学習成果を図り、その達成度にあった学習指導のための習熟度別リメディアル授業を実施し、基礎学力の充実を目指す。	A	B	B	習熟度別リメディアル授業の実施により、英語・数学に対する苦手意識を克服し、小さな達成感の積み重ねの上に、自信を持たせる指導ができた。成績の更なる向上が課題である。	基礎学力の向上を目指し、継続して実施する。
	生徒の個性と特性の伸長を図る。	個性伸長を目的として「英検講座」を必修、「中国語」「簿記」を選択必修とし、個性の伸長を図る。	A	A		各個人の興味・関心による選択科目であるため、しっかりと取り組ませることができた。	改善を加え、より興味の持てる授業を目指す。
	希望進路の実現に向けた学力の伸長と社会性の養成を図る。	SSPにより1・2年生は学習習慣を身につけ、3年生は自己の進路目標実現のための受験勉強に取り組む姿勢を確立させる。各種検定・資格取得に挑戦させ、自信を持たせやる気を喚起する指導に努める。	A	B		各クラスの進学を目指す生徒をピックアップし、担任から該当生徒とその保護者に声掛けをし参加者を増やした。参加者は目的意識を持ち、意欲的に学習に取り組んだ。自ら学ぶ姿勢を身につけさせ、長期休業中もしっかりと学習に取り組むことができた。参加生徒を増やすことが課題である。	より多くの生徒がSSPに参加し、自己の進路実現に意欲的に取り組むことを目標に、内容の充実と参加生徒増に努める。
アスリート	徹底した基礎学力の充実と学力を伸長させる。	学習内容をさらに充実させ、「伸びる授業の展開」に努める。	B	B	B	数学は習熟度別クラスのため、個々の学力に応じた学習内容となっているが、その他の教科は個人差が大きく対応が難しかった。	今年度でこのコースは終了した。
	文武両道のバランスのとれた生徒を育成する。	部活動を通して技術の向上・体力と精神力の向上を図るとともに、コミュニケーション能力を培い、試合・遠征等で様々な経験をし、自信を持たせる。	A	A		各部活動で好成績をあげた。それに伴い学校での学習意欲の向上にもつながった。	今年度でこのコースは終了した。
	希望進路の実現に向け、懸命に取り組む強い精神力を養う。	希望進路に向け、徹底した学力補充と受験指導にあたる。保健体育科目の学習を充実させ、さらに畿央大学の健康科学部から講師を招き、スポーツ理学・心理の知識を習得し、体育系進路への対応を図る。	B	B		希望進路は本人の技量によるところが大きい。概ね進路決定のためのサポート体制は確立された。畿央大学からのサポートはあるものの、それが体育系への進路実績につながらなかった。	今年度でこのコースは終了した。